

# 中央区文化・国際交流振興協会だより



「第27回古典芸能鑑賞会」  
弥次喜多・東海道中膝栗毛 in 中央区



一番太鼓

● 特集 ●

## 古写真から探る 実践に活かせる きもののコーディネート今昔 いまむかし

月刊アレコレ編集長 細野 美也子 氏

- 第31回中央区国際交流のつどい
- 令和6年度の事業報告と決算
- 第18回中央区まるごとミュージアム 2025



## 古写真から探る 実践に活かせる きもののコーディネート今昔

月刊アレコレ編集長

### 細野 美也子 氏



令和7年10月に3回にわたり開催した文化講座「日本の心を未来につなぐ 和服の魅力」第3回では、きもの情報誌月刊アレコレより講師をお招きし、「古写真から探る 実践に活かせる きもののコーディネート今昔」と題して講演していただきました。大変好評でしたので、このたび講演に関連した内容について寄稿していただきました。

## 明治維新できものはどう変わったか？

徳川幕府から明治政府への移行により、諸外国との交渉が増えた日本は、国際的な交渉の場で相手国と対等な関係を築くためには洋服である必要性を感じたところから洋装化を推進しました。明治5年（1872）に発令された「太政官布告 第68号《礼服ニ関スル被仰出書》」は、主に公式な式典における大礼服などについての服制で、一般庶民に及ぶものではありませんでした。しかし、そういう中でも洋服の実用的な面や、装飾性を取り入れた和洋ミックスな“きものの着方”が徐々にでてきます。「ハイカラさん」は大正時代の女学生のイメージですが、実際は明治時代から使われ始めた言葉。「ハイカラーシャツ＝高い衿」を語源として、西洋風で、新しい流行を取り入れた風俗や人を指します。

まだまだ和装が日常というものの、洋服の機能的な面や装飾性を取り入れた装いは徐々に出てきます。この変化には3つの要素があり、1つは先に述べた政治的な意図からの洋装化。2つ目が進取の気質の人々による流行やおしゃれ。3つ目が実用性からの導入です。

## 実用性での導入「靴・インナー・袖」

ここでは上記の2つ目と3つ目について触れていきます。明治時代、和装にちょい足ししている洋の要素が「靴」「インナー」です。現代でも実用性+おしゃれとしてきものに取り入れやすいアイテムです。そしてきもの史としては、あまり知られていない、楽しいトピック、女学生の「ブラウス袖」についても紹介したいと思います。

まずは、「靴」。機能性とともに、単独で用いる靴は和装に取り入れやすい要素だったのではないか、と考えます。そして「インナー」。きもの下に着るシャツです。すぐに思い浮かべるのが書生スタイル。きもの下にシャツを着るのは男子学生に限らず。子ども、成人男性まで、紋付き袴でも普通に着用されていました。加えて、これはあまり知られていませんが、実は女学生もきもの中にブラウスを着ている写真が多いのです。

これは現代でも活かされていて、きもの下にパーカーやセーターを着る着方が定着してきています。セーターを着て、下はスパッツやジャージできものを一枚羽織る……と考えれば、きものを着ることはとても現実的になると思います。

そして「袖」の変化。子どもたちは袂がない、洋服に近い筒袖になります。



きもの上にシャツの衿を出し、帽子を被る若い男性（大正期）



和装にブーツを履く少年と父（明治後期～大正期）

細野美也子（ほそのみやこ）氏



創刊21年のきもの情報誌「月刊アレコレ」編集人。きもの特化した制作・執筆に携わり、きものを日常化するための提案を続けている。

また収集した古写真を資料とした明治以降のきもの史についての考察が注目され各所で講演、展示企画等を行う。10月発行された「レトロファッショングリーン大図鑑」(KADOKAWA)ではきもの監修を担当。

一般社団法人きもの未来協議会理事、一般社団法人きものカラーコーディネーター協会理事、東京キモノショー実行委員。

YouTube きものトレンドチャンネル配信中  
<https://www.youtube.com/@arecole-ch>



す。これは学校教育に体育が取り入れられたことも一因と思われますが、さらに、女学生たちの間で見られるブラウス袖への進化。こちらは装飾の項で説明したいと思います。

## 装飾性への進化

女学生はブラウス袖（筆者の呼び名）になっていきます。ややゆったりしたフォルムで袖口にフリルがついている、ブラウスの袖そのものです。あまり知られていませんが、特殊な事例ではなく写真でもよく見ますし、たかばたけかしお 高畠華宵の大作の屏風絵で、明治から昭和の服飾を描いた「移り変わる姿」のなかにもブラウス袖の女学生がいます。これらは明らかに進化した袖のおしゃれだと思われます。

また、指輪、衿留めなどの装身具も多く見られるようになり、代表的なアイテムが西欧の定時法を採用したことにより普及した懐中時計。実用性とおしゃれで、男女ともに流行しました。因みに、女性の懐中時計は長い鎖を通してネックレスのように着けて、時計は帯の中に収める用い方。現代でもすぐ真似できそうなおしゃれです。



山梨英和女学校と思われるブラウス袖の女学生たち  
(明治後期 月刊アレコレ蔵)



懐中時計を着けた女性  
(明治後期～大正期 個人蔵)



「風俗画報」挿絵 靴、帽子、ステッキを身につけた男性たち (明治中期) 月刊アレコレ蔵

## 流行を意識し始める大正・昭和

大正時代は、デモクラシー、女性の社会進出、モダン文化が開花した時代です。明治末から化学染料が入ってきたことによる、鮮やかな色。そして洋花柄やアールヌーボーなど、流行の欧米文化を取り入れたデザインが増えて昭和へと続きます。また女性の社会進出を反映して、軽く締めやすい名古屋帯が考案されなど、様々な「流行」が生まれます。

具体的には、デパートや各雑誌の、いわゆる広告宣伝媒体やメディアが送り出す情報が旬とされ、ファッションの流行が意識されます。例えば、昭和に入ると婦人誌で和裁の「美容仕立て」という言葉が頻出します。これは縫い方の違いではなく「体に合わせた寸法できものを仕立てること」なのです。それまではざっくりした“普通サイズ(並寸)”。一枚のきものを季節で单衣、袷、綿入れと、家族分仕立て直す作業に複雑な寸法は不要というわけです。憧れの夢二の絵のようなゆったり着付けは、実は寸法があつてない可能性もあるということです。戦前の婦人誌の記事で、三越縫製部の仕立て職人の「もう反物幅いっぱい仕立ててグダグダな着方をする時代じゃない」というコメントは目から鱗でした。

着付けも然り。戦後の昭和では衣紋は抜かないほうがモダン、帯はやや曲げたほうが粹という価値観だったのです。

## セオリーや価値観の変化

ここで言いたいのは、私たちがきものに対して壁を感じる決め事は、実はそうでもないということです。きものも、流行や変化を繰り返して現代にあるのです。相手を慮るフォーマルを別にすれば、カジュアルは自由。身近な普段着としてファッションの幅を広げ、楽しみをもたらしてくれると思います。

## 男性の帽子とステッキ

そして、特筆したいのが男性の帽子とステッキ。これも取り入れやすいアイテムですが、明治維新に伴う諸々の状況と事情も絡み合っています。

帽子は欧米では紳士の必須アイテム＝礼儀・品位の象徴です。和装でも帽子をかぶることが「文明的」「礼儀正しい」と理解され、特に都会ではステータスシンボルになります。髪のない断髪頭は「不恰好、恥ずかしい」と感じる人が多かったのですが、帽子で「断髪後の違和感」を緩和できたメリットもあり、身分や老若を問わず定番となっていきます。ステッキも同様で、紳士の象徴、富裕階層のアイテム（持っていると身分が上に見える）などの理由で定着しました。



●抹茶の点て方体験  
Matcha Making Experience



●サルサ  
Salsa Dance



●水引細工  
Mizuhiki Workshop



●和太鼓ワークショップ  
Taiko (Japanese Drum) Workshop



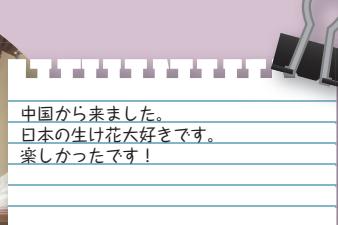
●折り紙  
Origami



●けん玉実演  
Kendama Performance



●生け花体験  
Flower Arrangement Experience



●盆踊り  
Japanese Bon Dance



●防災コーナー<sup>Disaster Preparedness</sup>

## 第31回中央区国際交流

31st Chuo International Exchange

2025年11月15日(土)  
第31回「中央区国際交流」  
31の国・地域出身の102人  
445人の参加者が集い、

私たち中央区文化・国際交流振興協会が毎年秋に開催する「中央区国際交流のつどい」は、外国人と日本人の市民同士の国際交流を推進する協会最大のイベントです。今年も、日本や諸外国の文化を紹介し合う、19のプログラムを実施しました。11月15日の快晴の土曜日、12時の開始前から入り口には参加者の行列ができていました。受付を通して、楽しい交流時間の始まりです。

外国人に日本の伝統文化を体験してほしいという思いから、本イベント創設以来続くのが「茶道」「生け花」「着付け」です。茶道では、英語・中国語・韓国語の手引きが用意され、参加者自身が点てる「抹茶の点て方体験」と、和室で和菓子と抹茶をいただき、「呈茶・茶道体験」を楽しめました。「生け花体験」の今年の花は菊、孔雀草、ルスカス（葉）

の3種類。花鉢（はなばさみ）や剣山などの華道具に触れられるのも貴重な機会です。外国人限定の「着付け」では、老若男女がお好みの振袖や和服を着て記念撮影。誰もが笑顔になりました。

「折り紙」では、来年の干支である「馬」と「星」を折るワークショップを開催。巧みに折られた『折り紙の動物』展示コーナーでは、その精密さに「amazing!」の声が上がっていました。「水引細工」では「あわじ結び」という縁起の良い結び方をレクチャー。作った水引はストラップなどにして持ち帰ることができました。昨年から始まった「型染め染色体験コーナー」では、着物の摺り刷毛（すりばけ）を使いながら、布の上で色を混ぜて着色する独特の技法にチャレンジできました。子ども達に人気だったのは「扇づくりと扇の展示」。その隣で行われていた「長唄三味



●スリランカミルクティー  
Sri Lankan Milk Tea



●スリランカパネル展  
Panel Exhibition of Sri Lanka



●サリー着付け  
How to put on a Sari

## 国際交流のつどい

### Shou City Exchange Party

上)、築地社会教育会館で「国際交流のつどい」を開催しました。  
2人の外国人を含む  
国際交流を楽しみました。



●型染め染色体験コーナー  
Katazome(Stencil Dyeing)



●着付け  
Kimono Etiquette



インド出身です。  
建築系の仕事をしています。  
とても楽しかったです。  
また来年もきたいです。



●日本の遊び・海外の遊び  
Japanese Games・Foreign Games



●長唄三味線を弾いてみよう！  
Let's try Shamisen !



●凧づくりと凧の展示  
Kite Making and Displays

「線を弾いてみよう！」では、大人達が『さくらさくら』の合奏を目指して奮闘しました。「和太鼓ワークショップ」では参加者が太鼓を前に列を作り、1人ずつ「ドーンドーン、ドンがドン～♪」のリズムでお囃子に合わせて、張りのある音を響かせました。打ち終えたら列の最後尾につき……と回を重ね、腕を上げていきました。

「スリランカパネル展」では、今年はじめて約30分の“スリランカ紹介”タイムが設けられ、豊富な動画や写真を交えた軽快なトークが繰り広げられました。まるでスリランカを旅しているようなワクワクした時間となりました。「サリー着付け」では参加者がスリランカサリーを纏うことができ、異国の気分を味わえました。「スリランカミルクティー」と「日本の料理（けんちん汁）」が振る舞われた料理コーナーは常に人だかり。参加者同

士でおしゃべりを楽しむ姿も見られました。「防災コーナー」では、能登地震のパネル展示や非常用トイレの使い方を交え、外国人にも知ってほしい緊急時の心得などを紹介。非常食の配布も行われました。ステージでは、「けん玉実演」「盆踊り」「サルサダンス」が順に行われ、講師のご指導で、参加者も一緒に技に挑戦したり、輪になって踊ったり、ステップを踏んだりと大にぎわいでした。広いロビーで行われた「日本の遊び・海外の遊び」は閉会時間まで大盛り上がり。お手玉、けん玉、コマ回し、輪投げ、囲碁、将棋、世界各国の盤ゲームなどを囲んで、国籍も年齢も異なるたくさんの参加者が笑顔で交流しました。ボランティアスタッフによる手づくりイベントですので、参加費無料で楽しめる国際交流のひとときを、ぜひ来年もご一緒に。皆さまのお越しをお待ちしております。

# 令和6年度の事業報告と決算

## 令和6年度の事業報告

令和7年7月9日（水）開催の「令和7年度第1回理事会」において、令和6年度の事業報告及び収支決算が承認されました。その概要をお知らせします。

### I 文化振興事業

#### (1) 機関誌の発行

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を発行しました。

発行部数等 5,500部 A4判 8ページ

発行回数 年2回（令和6年7月—第81号、同年12月—第82号）

#### (2) ホームページの運営

協会ホームページにて、協会の事業内容やイベント案内等の最新情報を提供し、協会に対する理解と参加の促進を図りました。

URL : <https://www.chuo-ci.jp/>  
また、SNSによる情報発信も行いました。



#### (3) コンサートの開催

音楽の楽しさに触れられる機会としてコンサートを開催し、音楽文化への理解を図りました。

日 時 令和6年9月12日（木）  
午後6時30分開演

会 場 銀座プロッサムホール（中央区立中央会館）

内 容 手嶌葵コンサート

出 演 者 手嶌 葵

入場者数 773名

参 加 費 2,000円



#### (4) 文化講座の開催

中央区に縁のある文化や歴史等からテーマを絞り、その理解を深めるため、専門家による講話等で構成する連続講座を開催しました。

令和6年度は、区内老舗企業であるエスビー食品株式会社の協力のもと、食文化を彩り、健康づくりにも役立つ香辛料をテーマに、「知れば知るほど奥深い！香辛料の世界」と題して開催しました。

##### 第1回

日 時 令和6年10月10日（木）

午後6時45分開演

内 容 世界を魅了する香辛料～その香りと歴史をたどる～

##### 第2回

日 時 令和6年10月24日（木）

午後6時45分開演

内 容 日本の食卓に根付いた香辛料～カレーライスの普及から家庭で使える「スパイス&ハーブ」～

##### 第3回

日 時 令和6年10月31日（木）

午後6時45分開演

内 容 これからの「スパイス&ハーブ」～未来の食生活と健康に向けて～  
講 師 エスビー食品株式会社  
スパイス&ハーブマスター 浜元 美和氏（全3回共）

会 場 本の森ちゅうおう 1階 多目的ホール

参 加 者数 延216名

参 加 費 無料



#### (5) 特別文化講演会の開催

展覧会・美術展に関連した講演会をNHKとの共催により開催し、幅広く文化意識の向上を図りました。

##### 第1回

日 時 令和6年4月24日（水）

午後6時50分開演

会 場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」  
演 題 特別展「法然と極楽浄土」のみどころ

講 師 東京国立博物館 列品管理課登録室長 瀬谷 愛氏

参 加 者数 329名

参 加 費 無料

##### 第2回

日 時 令和6年7月29日（月）

午後6時50分開演

会 場 日本橋社会教育会館ホール  
演 題 神護寺展の見どころ一創建1200年の軌跡と奇跡ー

講 師 東京国立博物館 教育課教育普及室研究員 古川 撮一氏

参 加 者 171名

参 加 費 無料



#### (6) 古典芸能鑑賞会の開催

中央区に深い関わりのある古典芸能を広く鑑賞できる機会を提供することで、伝統文化への理解と愛する心を育み、その継承・普及を図りました。企画・制作は、「中央区古典芸能の会」に委託しました。

日 時 令和6年5月25日（土）

午後5時開演

会 場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」  
内 容 講話 「鳶屋重三郎がいた街」～中央区江戸浮世絵師雑話～

伊東 成郎

舞踊 清元「神田祭」清元美寿太夫

落語 「千物箱」金原亭馬生

舞踊 大和樂「団十郎娘」

娘 花柳 ツル

丁稚 羽鳥 よしだ

演奏 浄瑠璃 大和 嘉人

大和 左京 さきよ

櫻笙 さくら

入場者数 298名（花道使用）

参 加 費 2,000円（中学生以下1,000円）

#### (7) 文化推進事業助成

中央区内の文化活動を促進していくために、区民等が取り組む文化活動等に対し、その経費の一部を助成しました。

##### （助成）

#### ①文化創造・発信事業助成

助成金額：当該事業の対象経費の9／10の範囲内（上限200万円）

助成件数：ア 令和6年度助成件数（令和5年度決定）：4件

イ 令和7年度助成予定件数（令和6年度決定）：4件

#### ②文化団体活動助成

助成金額：当該団体活動の対象経費の1／2の範囲内（上限40万円）

助成件数：ア 令和6年度助成件数（令和5年度決定）：4件

イ 令和7年度助成予定件数（令和6年度決定）：4件

#### ③文化推進事業助成

助成金額：当該事業の対象経費の1／2の範囲内（上限10万円）

助成件数：2件

##### （後援）

後援件数：10件

#### （8）中央区まるごとミュージアム

中央区は、名所・旧跡、画廊・美術館、水辺など豊かな文化資源を有しています。その文化的な魅力を体験できる総合的な文化イベントを、中央区と共に実施しました

日 時 令和6年11月10日（日）

午前10時～午後4時

場 所 中央区全域

#### 実施結果

・バス乗車人数（区内巡回用都営バス借り上げ）江戸バス。いずれも無料）

合計3,700名

・乗船人数（日本橋周遊、明石町水辺ライン周遊及び日本橋～晴海の3コース。無料）

合計2,499名

・イベント事業数 45事業及び3協賛事業

延60,000名

#### （9）文化振興プロデュースチーム

「中央区文化振興プラン」（平成20年3月中央区文化振興懇談会提言）に基づき、区民等（企業、NPOを含む）の自主的な文化活動の推進・拡大を図るために、中央区と協会が協力して専門家等で構成するプロデュースチームを平成20年度から運営しています。

令和6年度は、区や協会が行う文化事業について意見をいただくとともに、まるごとミュージアムの事業者連絡会に出席するなど、区内の文化事業の推進に関わっていただきました。

## II 国際交流振興事業

#### （1）国際交流のつどい

外国人と日本人との交流を推進するため、ボランティアが主体となって日本の伝統文化等の紹介や外国文化にも触れる交流イベントを開催しました。

日 時 令和6年11月16日（土）

正午～午後4時

会 場 築地社会教育会館

内 容 ○伝統文化体験コーナー

○国際交流サロンコーナー

○防災コーナー等

参加者数 516名（ボランティア等含む）

参 加 費 無料（自由参加制）

#### （2）国際交流サロン

在住・勤務・在学の外国人と日本人が、日本の文化等をテーマにしながら交流を深められる場となる「国際交流サロン」を、11月を除く毎月開催しました。

会 場 男女平等センター「ブーケ21」他

内 容 サロンは国際交流サロンボランティアが協力しながら企画・運営しました。4月：浜離宮恩賜庭園で春を楽しもう！5月：海苔の魅力再発見！6月：和菓子作り、7月：茶道の文化にふれてみよう、8月：盆踊りを習って踊ってみよう！9月：みんなで楽しもう!!!モルック大会！10月：日本酒から学ぶ、12月：『生け花』を学ぶ、1月：附け打ちを学ぼう！2月：こんなんどうする？3月：防災訓練



# 第18回中央区まるごとミュージアム 2025

11/9(Sun)  
10:00～  
16:00



11月9日(日)、第18回「中央区まるごとミュージアム 2025」を開催しました。48の事業が実施され、のべ51,000人の皆さんに中央区の歴史と文化をお楽しみいただきました。

主催：中央区、中央区文化・国際交流振興協会

江戸開府以来400年以上にわたり、日本の文化・商業・情報の中心として発展してきた中央区には、名所・旧跡、伝統芸能、水辺など豊かな文化資源があふれています。「中央区まるごとミュージアム」は、そんな区内全域を大きなひとつの“ミュージアム”に見立て、区民の皆さんとともに多彩なイベントを実施し、文化を楽しむ秋の恒例イベントです。

今年は、NHK大河ドラマ『べらぼう』の主人公「葛屋重三郎(つたやじゅうざぶろう)」にちなんだ文化イベントをはじめ、3つの初開催イベントなど計48の催しが行われました。無料で乗車・乗船できる「まるごとミュージアム専用貸切バス」「江戸バス」「周遊船(事前予約制)」のほか、景品が当たるスタンプラリー、アンテナショップや老舗レストランで特典を受けられる協力事業も同時開催。小学生以下の銭湯無料入浴サービスもあり、老若男女が秋の中央区を満喫しました。

初開催された“無料ミニオペラコンサート&ストリート歌唱!?”〈写真①〉では、月島歌劇団の声楽家らが美しい歌声を披露。圧倒的な美声に会場は感動に包まれました。ストリートピアノならぬストリート歌唱のコーナーでは、参加者がピアノの生伴奏で童謡などを歌うことができました。このほか、森林保全活動を行なう「中央区の森」で発生した間伐材を活用した“檜原村の間伐材でクリスマスツリーを作ろう!”、佃島の礎を築いた“森孫右衛門(もりまごえもん)の実像を探る”も初開催となりました。

“灰と炭を使ったお香のたき方 実演コーナー”〈写真②〉では、11月1日「古典の日」にちなみ、古典文学で薫物(たき

もの)として登場する練香(ねりこう)のたき方を目の前で学べ、雅やかな香りにうっとり。“祝 登録文化財 佃島・旧飯田家住宅の見学会”〈写真③〉では、2025年3月に国の「登録有形文化財」に登録された築100年以上の魚問屋の併用住宅に残る、独創的な生け簾(いけす)や井戸を配した土間が印象的でした。絵手紙体験もできた“秋の味覚を杉トレイに描こう@築地場外市場”〈写真④〉をはじめ、参加型企画も多く伝統と文化をたっぷり味わうことができました。

趣向を凝らした多彩なガイド付きツアー企画も「まるごとミュージアム」の魅力です。外国人観光客で賑わう築地で、看板建築や波除神社などを巡る“築地場外市場ミニツアー”〈写真⑤〉、2024年に誕生した晴海図書館を巡る“晴海図書館図書館ツアー”、築地外国人居留地を巡る“歴史散歩。かつて中央区にあった外国人の街のお話と散歩！”など、それぞれの町がもつ異なる個性や物語を楽しめました。毎年応募多数の“まち歩きツアー「まるごとミュージアムコース」”〈写真⑥⑦⑧〉では、専用バスで区内を横断しながら、葛屋重三郎ゆかりの町々を訪ね、薬研堀不動院の講談で締めくくる充実の2時間となりました。

例年9月中旬から“事前募集イベント”的申し込みが始まり、11月上旬にイベントが開催されます。2026年も中央区と共に開催予定です。ぜひ、皆さまでお出かけください。

最後に、本年もご参加いただきました皆さん、ご協力いただいた全ての皆さんに、この場を借りて感謝申し上げます。



①月島歌劇団によるミニコンサート



②「香老舗 松栄堂」の練香の実演



③築100年超の佃島・旧飯田家住宅



④秋の味覚を杉トレイに描く絵手紙体験



⑤築地場外を巡るミニガイドツアー



⑥イチマス田源内に再現された「耕書堂」



⑦葛屋重三郎が「耕書堂」を構えた跡地



⑧一龍斎貞友先生による講談

## 表紙

27回目を迎えた「古典芸能鑑賞会」。今回はおよそ1年半かけての改修工事を終え、新装オープンした日本橋劇場の新たな幕開けの記念公演となりました。オープニングでは「一番太鼓」の莊厳な音が会場に響きわたり、フィナーレは「弥次喜多・東海道中膝栗毛in中央区」の華やかな舞台で幕を閉じました。大きな感動が劇場一杯に広がった今回の鑑賞会でした。

特集は、月刊アレコレ編集長 細野美也子氏に、10月に開催した文化講座「日本の心を未来につなぐ 和服の魅力」に関連した内容について寄稿していただきました。31回目を迎えた「国際交流のつどい」では、料理(けんちん汁、スリランカのミルクティー)や踊り(サルサ、盆踊り)、煎茶・茶道等日本の伝統文化の体験など様々なコーナーに445人の方が参加され楽しく交流を深めていただきました。18回目となった「中央区まるごとミュージアム2025」では、48の多彩な文化イベントが繰り広げられ、延べ51,000の方に中央区の文化的な魅力を満喫していただきました。